

日本放射線影響学会

第6回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー 開催報告

日本放射線影響学会第62回大会(会場:京都大学吉田キャンパス)の第1日目(2019年11月14日(木))の11:45~12:45に「第6回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー」を開催しました。今回は、第一日目のお昼、他に同時並行で開催されるセッションが無い時間帯に開催されたこともあり、例年のセミナーよりも多い人数(75~80名程度)の学会員の皆様にご参加いただきました。

第一部では、京都大学理事・副学長の稲葉カヨ先生に「京都大学における男女共同参画の取り組み」というタイトルでご講演いただきました。稲葉先生は、ご講演の中で、京都大学でも女性教職員の割合が未だ少ない現状を示され、京都大学では、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援という3つの重点目標を設定し、基盤整備の拡充と男女共同参画の一層の深化を進めていることをご紹介くださいました。

第二部では、「放射線影響科学から広がる多様な道 ~年代・性別の枠を超えて~」と題し、多様な年代の学会員5名(岡安隆一先生、田内広先生、島田幹男先生、藤通有希先生、森山ひとみさん)にご登壇いただき、パネル討論を実施しました。今回のパネル討論では、参加者のキャリア形成における課題を会場全体で共有して双方向性の討論を行うことを目指し、初めての試みとして、インターネットのリアルタイム投票システムを利用した「リアルタイム意識調査」を2回導入しました。

パネル討論は、まず初めに、参加者の皆様に、「リアルタイム意識調査」の最初の質問「あなたにとってキャリア形成上の一番の悩みや関心事は何ですか?」に対し、5択の中から1つ選んでいただくことから始まりました。調査の結果は図1の通りで、「次のポジションの獲得」(32%)、「研究分野とテーマの選び方」(26%)、「育児や介護と研究の両立」(18%)、「どのような職に就くことを目指すか」(18%)、「海外留学のタイミングと意義」(6%)など、回答は割れており、それぞれの参加者の年代や背景によって、キャリア形成を取り巻く課題は多岐にわたることがうかがえました。

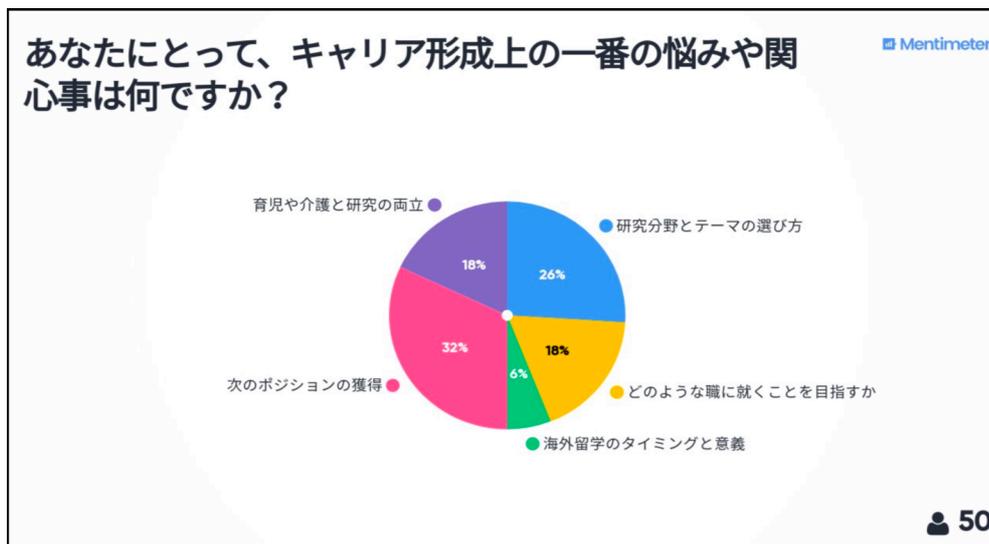


図1 冒頭のリアルタイム意識調査結果

続いて、各パネリストから自己紹介をいただいた後、「放射線影響科学から広がる多様なキャリアパス」、「留学の意義」、「人生の転機において、どのように考えて行動するか」「キャリアを形成していく中で最も重要な要素、優先順位すべきことは何か?」のテーマに対し、パネリストの皆様から、それぞれの経験を踏まえたご意見やご助言をいただきました。

- 岡安隆一先生(量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所):
高校の物理の教員を経て、長年アメリカで放射線生物学の研究者としてキャリアを形成され、帰国後は定年後の現在に至るまで日本(放医研)で研究活動を続けておられるお立場から、日本と海外の環境の違いに触れながら、若手研究者への海外留学のススメと国際的な知り合いを持つことの重要性を説かれました。

- **田内広先生（茨城大学）：**
高校の教員を経て、大学就職時に放射線生物学の研究をスタートされ、以後、アカデミアの世界でキャリアアップをされ、教育者としても多くの卒業生を社会に送り出してこられたお立場から、放射線影響科学の特色や多様なキャリアパス、人生における様々な転機を乗り越える術をお話いただきました。人との出会いを大切に、「進んで苦勞を買う」ことの大切さを説かれました。
- **島田幹男先生（東京工業大学）：**
大学院生時代に DNA 修復研究を開始し、米国留学におけるゲノム安定性と脳神経発生の研究活動を経て、大学助教として就職し、iPS 細胞を用いた幹細胞におけるゲノム安定性の研究に従事しておられた経験を踏まえ、海外留学をすることの意義や帰国するタイミングについて、また、帰国後の研究テーマの選びの重要性について述べられました。
- **藤通有希先生（電力中央研究所）：**
工学系の放射線防護の分野で博士号を取得し、現職に就いてから、生物学の研究を開始されました。現在、乳幼児を育てながら研究をしている立場から、子どもともっと一緒に時間を過ごしたい一方、もっと研究にも時間をかけたいというジレンマについて述べられました。また、研究者のキャリアパスが多様化している現代において、自身がロールモデルとなることの必要性を述べられました。
- **森山ひとみさん（首都大学東京、量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所）：**
大学卒業後、経済的事情のため一度は大学院進学を断念して診療放射線技師として就職しましたが、家族の後押しもあり、2年後に大学院に入学して放射線発がんの研究に携わってきました。現在、博士課程の最終学年で、悩んだ末、最近、電気機器メーカー（研究職）に入社を決めた経緯を述べられました。若いうちにやりたいことを諦めずにやってみることの重要性を強調されました。

なお、以下の図2は、討論の中盤で行った2回目の意識調査の結果です。「キャリアを形成していく中で最も重要な要素、優先順位すべきことは何ですか？」を4択の中から1つ選んでいただきました。ここでは「本人のビジョン」(48%)、「人とのつながり」(36%)の回答が特に多く見られました。一方、少数ながら、「組織・社会のニーズ」(9%)、「家族との関係」(7%)という回答も見られ、年代やキャリアの段階、人生のその時々状況に応じて、優先順位が変化していく可能性がうかがえます。

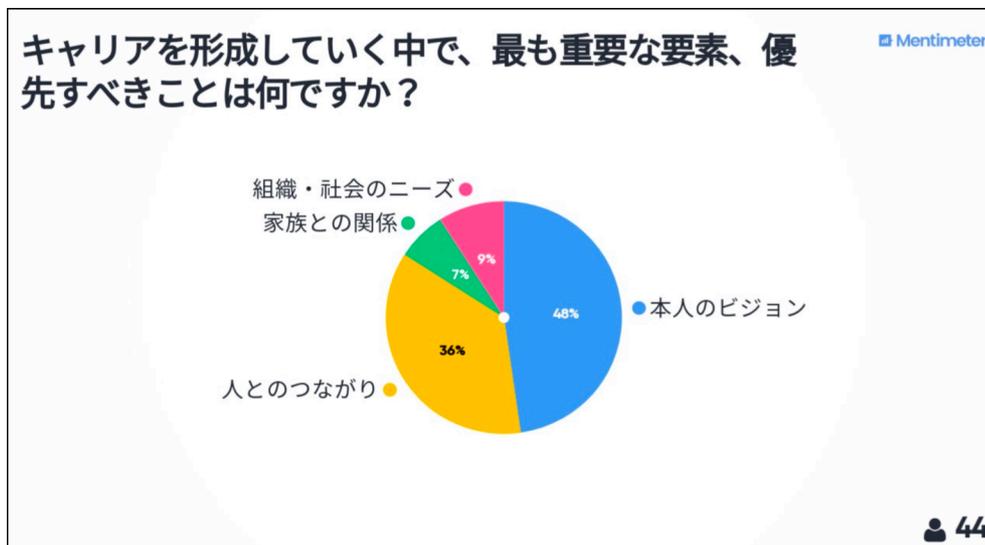


図2 討論中盤のリアルタイム意識調査結果

講師の先生やパネリストの皆様、そして、参加してくださった皆様のおかげでセミナーが盛会に終わりましたことを心よりお礼申し上げます。なお、参加者の皆様からのセミナーのご感想は、第62回大会の開催時期に合わせて実施した「キャリアパス・男女共同参画アンケート」の集計結果のファイルで読むことができます。残念ながらご来場できなかった皆様にとっても、ご参考になれば幸いです。